

事業名：学校給食事業

給食センター 業務係

政策	05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実							
施策	01 子どもの可能性を伸ばす教育の充実							
基本事業	03 健康と食育の充実							
開始年度	—	終了年度	—	実施計画 事業認定	対象	会計区分	一般会計	補助金

<b>事務事業の目的と成果</b>	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
市内小・中学校児童・生徒等	
手段（事務事業の内容、やり方）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2箇所の調理場で作った給食を6台の専用搬送車両で市内27小・中学校へ配送し、各学校にいる配膳員が各クラス毎に配膳する。</li> <li>・栄養教諭が学校教育課程の中で「食」に関する教育指導を行う。</li> </ul>	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい食事のあり方や、望ましい食生活を身につけ、食事を通じて育成時に必要な食事を摂取（栄養バランス、量）し、健康が維持される。また、食事、給食活動を通じて、豊かな心を育成する。</li> <li>・児童生徒にバランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の増進と体位の向上に貢献する。</li> </ul>	

指標・事業費の推移						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	小中学校児童生徒数	人	10,042	9,722	9,441	9,274
対象指標2						
活動指標1	年間給食センター稼働日数	日	203	205	204	203
活動指標2	栄養教諭による「食」に関する指導学級数	学級	278	302	302	—
成果指標1	残食率	%	19.6	19.9	19	—
成果指標2						
事業費(A)		千円	225,893	230,591	232,331	237,518
正職員人件費(B)		千円	142,060	133,867	130,477	130,661
総事業費(A+B)		千円	367,953	364,458	362,808	368,179

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理場運営、維持管理費用</li> <li>・配膳員をはじめとする旧称関係職員の人件費</li> <li>・給食配送や弁当箱洗浄など給食関係業務委託費</li> <li>・江別市学校給食会運営費への補助金</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配膳員等報酬費 57,357千円</li> <li>・重油代 24,182千円</li> <li>・電気料 13,125千円</li> <li>・水道料 13,490千円</li> <li>・学校給食配送業務委託料 45,150千円</li> <li>・江別市学校給食会運営費補助金 19,738千円</li> </ul>

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
事業を取り巻く環境変化	
①アレルギー児童生徒への対応 ②児童・生徒数の減少傾向。(学級数減) ③調理員の非常勤化(退職者不補充)	

平成25年度の実績による担当課の評価(平成26年度7月時点)	
(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか?市の役割や守備範囲にあった目的ですか?	
妥当である 妥当性が低い	理由 根拠 ・学校給食法 ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律
(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか?	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由 根拠 一日一度でもより安全な食材を使った給食を通して規則正しい時間に喫食することは健康面でも多大の貢献となり、栄養教諭による児童・生徒への食に関する指導の実践は数字で捉えるのは難しいが着実に成果をあげている。
(3)計画どおりに成果は上がっていますか?計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか?	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	理由 根拠 給食の中で食に関する指導の必要性は高まっており、指導内容の向上にも努めている。残食率は微減しているが、他の要因(個人的嗜好など)も影響していると思われ、判断は難しい。
(4)成果が向上する余地(可能性)がありますか?その理由は何ですか?	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 給食の食材は出来るだけ地産地消を取り入れ、メニュー等内容的には高レベルを維持している。今後、栄養教諭制度の導入で児童・生徒及び保護者への教育指導が充実していくため、上位貢献度、各指標共に向上が期待できる。
(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する方法はありませんか?	
ある なし	理由 根拠 コスト減は日常の無駄を徹底して省くことで対応(照明、冷暖房等)しているが、限界がある。